



「食べ物を作るんだもの、新鮮と安全と安心がとても大切。作物の出来が良いことが私の一番の喜びです。だから品質の悪い野菜が少ししかできなくて高値で売れるのと、良い野菜がたくさんできて安くなるんじゃ、農家としては高い方が良くって思うかもしれないけど、私は品が良いものができたほうがうれしいんだよね。」と言い切る戸門さん。

これからの後継者育成には 「意欲のある子に育てる」 これが重要ですね

と か ど
戸門徳司さん
(農業後継者の第二の父)

HITO

「農家の仕事は楽しい。でも私は作物を、生き物を育てるということとは、最も人間らしい仕事だと誇りに思っています。」と、日焼けした顔を輝かせながら話すのは、堀兼地区で露地野菜を作っている戸門さん。20年間も実習生を受け入れている、地域指導農家です。埼玉県農業大学校からの実習生は、1000日という長期間、戸門さんの家族と寝食を共にして農業経営を学びます。

それぞれの家庭での躾けの違いや生活の違いに、戸惑いやわだかまりはなかったのですか、という問いに「今の子どもは育つ張り（は）で朝起きられない子が多いんです。中には1か月たっても自分で起きてこれられない子もいました。それでも、毎日、朝ご飯ができたよ」と起こしにいきまし



「家族みんなが、実習生の受け入れに協力してくれます。」出荷作業中のご家族。

た叱るのではなく優しい言葉をかけて、徐々に約束を守るようにしていくんです。ほとんどの子は、一週間で馴染んでくれますよ。」と、第二の父としての子どもへの接し方を教えてくれます。そして一番大切なのは家族みんなが受け入れに理解を示して、本当の家族と思って迎えることです。家族の誰かひとりでも嫌な顔をしていたら、来る子も居場所がなくなってしまうし、こんなに長い間続けることはできなかったですよ。うちは家族みんなが気持ちよく協力してくれるので、実習生もうちの人間を第二の家族だと思ってくれるんじゃないかな。」と、目尻に刻まれた笑い皺（しわ）が深くなります。「今まで20人ちかい子がうちに来ましたが、どの子もみんな自分のせがれだと思つて預かりました。成人して結婚するときに招待状をくれたり、子どもが生まれたと言つて見せに来てくれたりと、今でもお付き合いのある子

どもが各地に大勢いるんですよ。」という、実習生との深い絆（きずな）もうなずけます。

そんな戸門さんが目指すのは、安全で新鮮な野菜作り。そのために、有志の農家が集まってできた土作りに励む会にも入り、これからの農業について積極的に話し合い、学んでいます。「消費者の皆さんが、採りたての作物の味を知ってもらえるように、努力はかかれます。」と戸門さん。そして、これからの農家はもっともつと勉強しなければいけない。土も水も空気もすべてが農業をやつていくために適した場所、地域であつて、周囲の農家がみんな切磋琢磨（せつさくさく）して自分の知識とノウハウを磨いていかないと、日本の農業は続かない。だからこの先生が残れるのは、本当に強い農家でしょうね。私の仲間の農家は、地区を越えてたくさんあります。みんな、これからの農業を背負つて立つ気持ちでいるんです。このことは、うちに来る実習生にも、農業後継者として理解して帰つてもらいたいと思っています。」と、真剣な表情で語ります。戸門さんはこんなふうに、農作業だけでなく自らの農業に対する姿勢を見せることも、実習生に「これからの農業経営のあり方」を教えているのです。

若い農業後継者の第二の父である戸門さん。日に焼け、がっしりした手が、これからの日本の農業を担う農家としてとても頼もしく見えました。

ジュニアリーダーは 子どもたちのよき遊び相手、相談相手 として活動しています

REPORTER'S EYE

ジュニアリーダー

【リポーター】

齋藤由美子さん(広瀬東在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、読者がリポートします。



ジュニアリーダー初級講習会で、7月22日・23日に厚木市で開催した合同宿泊研修会。身近なスリッパを利用したリレーでレクリエーションを学びながら、仲間作りをします。

今年の4月から完全学校週5日制になり、今は夏休み期間中というところもあり、地域や子ども会などの行事に、子どもたちが参加する機会が多いと思います。子ども会は自治会の中で、小学1年生から6年生までが力を合せ、1年間の行事などを自ら計画を立てて活動するもので、季節ごとの行事やキャンプなど、子ども会ならではの体験ができます。この子ども会を支えているのが、保護者や地域で青少年の健全育成に関心のあるかたが構成する、育成会です。今後、活躍が期待されるのがジュニアリーダーです。今回はジュニアリーダーについて、社会教育課の名譽課長に伺いました。

役となり子どもたちの活動を世話する役割を持ちます。狭山市では平成10年からジュニアリーダーの初級講習会を開催しており、小学6年生から中学3年生までがいろいろな人の話を聞いたリ、レクゲームや軽スポーツを体験しています。また、夏休みに開催する、神奈川県厚木市のジュニアリーダーと合同で行う宿泊研修や友好交流都市・新潟県津南町でのキャンプなど活動は幅広いものです。こうして集団生活で上級生と下級生が一緒になって、自分たちで楽しみながらさまざまな経験をし、それを地域の子ともたちに教えてあげたり、子どもたちの話し相手や相談相手になれるよう学ぶのだそうです。皆さんもご存じの、さいたま郷土かるた大会では、審判や読み手もジュニアリーダーが行い、大会の運営に参加し大いに盛り上げているのだそうです。

このような活動に、各校から参加した子どもたちは初めは少し恥ずかしさもあるようですが、講習を重ねることに違つ学校にも友だちができてうれし、活動が待ち遠しい、と言ってくれたり、保護者からも講習会に参加するようになって、とても積極的になりました。自分の役割を意識しています。と感想が寄せられるそうです。

名譽課長は、中学生、高校生のジュニアリーダーは、大人より子どもに近いものの考え方が持てるんです。



講習会では、レクゲームなどのほか、消防署の隊員から救急法も学びます。

子ども遊び相手であったり、話を聞いてくれる相談相手として、子どもの意見を大人に伝えることができる、よき先輩、お兄さん、お姉さんなんです。また、子どもたちも大人に言われるより、ジュニアリーダーに話してもらおう方が素直に受け入れてくれます。今後は子ども会の活動だけでなく、公民館で行う週5日制事業にもジュニアリーダーが指導者として参加できる場を作りたいと考えています。とのことでした。

今回お話を伺い、地域全体で子どもたちを育てていくことの大切さを感じました。小学生からジュニアリーダーとして活動が続けた子が、今は高校生になっているそうです。ジュニアリーダーが大人になり、地域を大切にしながら関わっていける狭山市になれば、素晴らしいと思います。

●問い合わせ社会教育課へ内線5672